

結核を含む抗酸菌検査について

5月に入り、結核の発生届けが増えています。この2週間で4件もありました。入院・外来それぞれですが、カルテを見ていて、まだ結核と確定していないのに“結核”や“Tb”と記載していたり、古い検査方法の結果である“ガフキー”と記載しているのがありましたので、正しい表現方法についてお知らせします。

【結核の鑑別検査 基礎知識】

- ① 「結核菌」は「抗酸菌」というグループに属するので、まず「抗酸菌検査」を実施します。
- ② 「抗酸菌検査」には「塗抹（とまつ）検査」と「培養検査」があり、同時に検査依頼されます。
- ③ 「塗抹検査」とは、スライドガラスに検体を塗り、染色して、顕微鏡で菌の菌数を調べます。
- ④ 「培養検査」とは、栄養培地に検体を塗り、37℃で培養を続け、菌の集塊（コロニー）の数を調べます。
- ⑤ 結核菌は発育が遅いので、培養は8週まで実施します。
- ⑥ 「塗抹検査」や「培養検査」が陽性になったら、「PCR検査（遺伝子検査）」を実施して結核菌か否かを調べます。
- ⑦ 「PCR検査」の結果が「結核菌PCR（+）」になったら、結核！と確定されます。

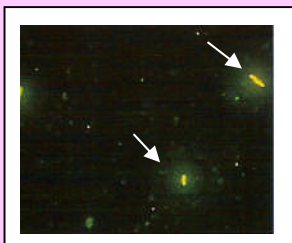
【当院の「抗酸菌塗抹検査」の変遷と現行の表記法】

- ① 「塗抹検査」には「直接法」と「集菌法」があります。
- ② 「直接法」とは、検体を直接塗抹する方法で、その結果は「ガフキー0号～10号」で表記されます。
- ③ 「集菌法」とは、検体をサラサラに処理して遠心機にかけ、その沈渣を塗抹する方法で、その結果は「抗酸菌ー、1＋、2＋、3＋」で表記されます（±は外注先で再検され、当院への報告はありません）。
- ④ 当院は2004年度まで「直接法」、2005年度から「直接法」と「集菌法」併用、2007年度からは「集菌法」を採用しています。

「鏡検（顕微鏡検査）における検出菌数の比較」

今は実施していません

蛍光染色陽性の抗酸菌



現行

集菌法	倍率 200 倍 (染色; 蛍光)	倍率 1000 倍 (染色; チール・ネゼン)	相当する ガフキー号数
—	0/30 視野	0/300 視野	G 0
±	1~2/30 視野	1~2/300 視野	G 1
1 +	2~20/10 視野	1~9/100 視野	G 2
2 +	≥20/10 視野	≥10/100 視野	G 5
3 +	≥100/1 視野	≥10/1 視野	G 9

【抗酸菌陽性時のカルテ記載の例】

- 「抗酸菌（塗抹）陽性」「抗酸菌（培養）（+）」「抗酸菌（2+）」
 「抗酸菌（+）、PCR検査中」「抗酸菌（+）、PCR結果待ち」など